

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

## 研修会記録

第2号

令和3年 9月 8日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 引田 雄士

【提案日時】

7月 7日 (水)

提案 渡邊 亮太 先生 ( 別所 小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 伊藤 友輝 先生 ( 仏向 小)

記録 上原 健太郎先生 ( 大口台 小)

○単元名： だいすき別所のまち もっと知りたい横浜市

○提案者より

- ・別所のまち=住宅地が広がっている。バスで大きなターミナルへ出られる。  
→まちの外への広がりを身近なバスでつなごうと考えた。

本時は二度目の学習計画・学習問題をたてる時間で、前回の経験をもとに考えてほしかったが、手立てが十分でなく、深く考えることができなかつたと感じている。

これまでの学習とつなげて考えられていない児童も多かつたので、子どもの視点を明確にするための手立てとしてどのようなものが考えられるか。

○協議内容

- ① 本時で単元を見通す学習問題により迫るためには、どんな手立てが考えられるか。  
(子どもたちがまちを見るための視点の設定)

- ・今回は、自分たちのまちを中心に同心円状に広がりを見ていった。

他の視点としては…

- 自分たちのまちと、例えばバスの終点のまち(上大岡)とを点と点で比べてみる。
- バスを利用する人の数や、駅を利用している人の数などを数値化して示していく。
- 白地図にまとめる内容として、交通網の広がりを入れて考える。
- 児童の発言に応じて、土地利用の分布や高低差を表した図などを提示してもよかつたのではないか。

- ② 子どもの発言をもっと長い言葉で語られせるために、どのような手立てが考えられるか。

(子どもたちが根拠をもって発言するために…)

- ・バスの行き先や、バス停を利用する人の数は実際に調べてくることができそう。それに付け加えて、行き先の様子がわかる写真があると、子どもの考えもさらに深まるのではないか。
- ・お家の人に聞いてきたことを話せるようになると、それも根拠の一つとなる。
- ・本時目標にある「調べたことを話し合う」と「関心をもち話し合う」では、前者だと短い文章になりがちなので、後者の方を深めていきたい。別所のまちでいうと、バスや車への意識は高いように感じるので、車を取り上げて、例えば横浜横須賀道路などで広がりを捉えさせる方法もある。

<講師の先生より>

3学年世話人校長 西富岡小学校 黒田 由希子先生

○単元を見通す学習問題は、子どもたちが主体的に学習に取り組むようにするための手立て。

○どう予想して、そのようにまとめるかが大切。

○教師の出るべきポイント（教師の問い返しと資料の提示）

① 文節2「どこ」の捉えについて。

教師の意図していた目的地（バスの行き先）ではなく、途中にある店や建物を捉えていた児童もいたのではないか。利用方法など様々で発言によって、考えが散らばってしまった。

教師が具体の資料（例えば地下鉄や京急線の路線図など）を提示することで、1つの資料を土台として子どもたちが話し合いを深めていくことができる。

② C102,C103の発言に対して、効果的な問い返しを。

・「どんな資料があればそれは分かる？」と子どもに考えさせる。

・「別所のよいところ」という児童の発言にはあいまいさがある。問い返すことで子どもの言葉がより長くなり、より深まる。

→「どういうところをそう思ったの？」

○学習指導要領の改訂 横浜市の様子に重点が置かれている。

まちと市を必ずしもつなげなければならないわけではない。

まちで分かったことを使って、市をどう見ていくか。が重要。

文責 八木 浩司 ( 南吉田小学校 )